やよい TOPIX

館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

『子ども食堂をつくろう！』
豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク／編著　明石書店

「子どもたちにお腹いっぱい食べさせてあげたい」「ごはんを作ることなら、自分にもできる」…そんな想いが集まって始まったのが、子どもたちに無料や安価で食事を提供する子ども食堂です。「子どもの貧困」が叫ばれる昨今、この活動は全国に広がりを見せています。名前は子ども食堂ですが、そこは地域に暮す人々が集まる、地域の拠点。そこで生まれた繋がりは、子どもだけでなく大人にとってもかけがえのないものでしょう。自分も何か力になりたい、そんなふうに思う1冊です。（丸山）

フレーズ＆センテンス

「〝人とのつながりの貧困〟をなくすお手伝い」

記念日から見つける、とっておきの一冊。

毎年12月25日は「クリスマス」。今では知らない人はほとんどいない行事ですが、受け入れられるようになったのは明治時代で、馴染むまでには長い年月があったそうです。今回はそんなクリスマスにちなんで、サンタクロースの秘密に迫った絵本を紹介します。

読書の窓

世界中の子どもたちにプレゼントを配り、サンタさんの愛称で呼ばれるサンタクロースの謎…。実はハイテクだったサンタクロースや、なぜ悪い子にはクリスマスプレゼントが届けられないのかなど、驚くような秘密が載っています。

鮮やかな色合いで描かれる本書をぜひ、クリスマス前に読んでみませんか？（影山）

『だれも知らないサンタの秘密』
アラン・スノウ／作　あすなろ書房

こんな本もありますよ

『憑かれたポットカバー』
エドワード・ゴーリー／作　河出書房新社

『ゆうぐれ』
ユリ・シュルヴィッツ／作　あすなろ書房

「誰か × 誰か」「誰か × 何か」の組み合わせが面白い。

かける×本精読

漱石 × 食べ物

『漱石のレシピ』
藤森清／著　講談社

皆さんお馴染みの夏目漱石。実は、胃が悪く酒も弱いことで有名で、彼の「食」に関する書籍はあまり多くはありません。

この本は夏目漱石の小説、日記などから、食べ物に焦点をあて漱石について、そして漱石の生きた明治の食文化について考察、追究した1冊となっています。『吾輩は猫である』の家庭食に始まり、『明暗』に出てくるリンゴは何県産かなど、なかなかマニアックな内容に引き込まれます。カレーライスやどら焼きの歴史など、食文化に興味がある人にもおすすめです。（竹原）

原作本から入っても良し、映画から入っても良し。

第32回

Cinema library

原作『ソロモンの偽証』
宮部みゆき／著　新潮社

映画「ソロモンの偽証　前編・後編」
藤野涼子、板垣瑞生、石井杏菜、
清水尋也／出演

今回は『ソロモンの偽証』を紹介。

クリスマス未明に中学男子が校舎から転落して死亡した。自殺として処理されたが、殺人事件であるという告発文が届く。学校関係者のみに届けられたはずの告発文はやがてマスコミの手に渡り、報道されてしまう。クラス委員長を務める藤野は真相を探るため、学校裁判を開くことにする。

裁判が進むにつれ明らかになっていく死亡した男子の性格・行動、クラスに渦巻く事件への思い。藤野は無事に裁判を終わらせ、事件を真相へと導けるのかが見所。映画ではショッキングな映像があったりもしますが、迫力の裁判のやりとりに注目してください。（大塚）

次回は『バスカヴィル家の犬』です。

図書館職員がやってみました。

こんにちは。手芸担当あらため、寺社ガールの丸山です。（ガールと呼んでもらえるような年なのか、というツッコミは置いておいて）今回は手芸からちょっと離れたトライです。

TRY BOOK

※本と実物を図書館内に展示しています。また、制作過程を facebook にて公開しています。

皆さま、御朱印というものをご存知ですか？ もともとは写経を納めた際にもらえる証明書のようなものでした。現在は参拝すればもらえる場合がほとんどです。近年は御朱印ブームとも言われ、多くの人が寺社に参詣しているそうです。私も元来仏像や神社が好きでいろいろなところを訪れていたこともあり、3年ほど前から、出かけた先々で御朱印をいただくようになりました。今回は新たに、本で紹介されていた綾瀬稲荷神社と江北氷川神社で御朱印をいただきました。千住七福神など、初詣の時期に合わせて御開帳や御朱印の授与を行う寺社もあります。御朱印をきっかけに、地域の寺社を巡ってみませんか？（丸山）

Vol.11

『御朱印アートブック』
菊池洋明／編著　PHP 研究所

クイズにこたえて、図書館でプレゼントをもらおう。

もんだい：サンタさんのソリを引く動物は何でしょう？

①　ネコ　　②　トナカイ　　③　ペンギン

こたえ：＿＿＿＿＿＿＿＿